

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市市名坂児童館
2 指定管理者	特定非営利活動法人MIYAGI子どもネットワーク
3 指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和6年度 22,504人(前年度比 104.2%) 令和5年度 21,603人 令和4年度 19,949人
	《事業》 ・児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業
5 収支の状況	《費用》 ・ 指定管理者に支払った費用 41,686千円(49,340千円) ・ その他市が負担した費用 0千円(0千円) ()は前年度決算額
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円(0千円) ・ その他収入 0千円(0千円)
6 利用者の声	《実施状況》 ・利用者アンケート、児童館地域運営懇談会、児童クラブ保護者懇談会を実施。

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議、チェックシート等で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	31/31
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。施設内外の環境美化にも努めており、特に児童館フェンス沿いに飾られた季節の鉢花は地域からも好評である。	24/24
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、こども達が安心して過ごせる生活の場を整え、学校を中心に各関係機関と連携して育成支援に取り組んでいる。また、乳幼児親子向けの行事開催や交流の場の提供により子育て家庭を支援すると共に、小中高生に対して、発達段階に応じた遊びの指導や活動支援を行っている。地域との交流事業においては、日頃の情報交換や様々な工夫を凝らした事業で地域連携の保持に努めている。	18/18

三 評価総括

《指定管理者（特定非営利活動法人MIYAGI子どもネットワーク）による自己評価》
「笑顔がいっぱい」「仲間がいっぱい」「支えあいがいっぱい」のスローガンの具現化と「地域に愛される児童館」を目指し運営に努めてきた。児童健全育成事業としては、裏庭・畑・花壇等を生かし、四季折々の自然を体験できる活動を大切にしてきた。さらに、異年齢での活動も「がきんちよ四季楽好」等の行事で積極的に実施した。子育て支援事業では、転勤族、核家族世帯の多い地域の事情を踏まえ、乳幼児親子同士の交流・悩み相談・身体を動かし発散できる行事を行い穏やかな笑顔が広がる居場所作りに配慮した。次年度は生育年齢の垣根を外し、参加しやすい環境づくりを工夫していきたい。児童クラブは学校と密接な連携協力の下、一人一人への丁寧な対応で安心感や自己肯定感を高めることに努めた。「子どもの笑顔を家庭のリビング」へ広げることが子育て支援・就労支援に繋がると考え、常に配慮してきた。地域の児童館として、小中学生の自由来館利用促進を積極的に進め、貢献度を高めていくことも課題と捉えている。地域交流事業としては市民センターと「ジュニアリーダーと遊ぼう」「防災講座」を共催行事として実施した。また、児童館前の通りを「マイフラワーロード」として四季折々の花で飾ったり、学校の森灯りファンタジー（5年目）を実施したりして、地域の方々にも喜んでいただいていた。利用者・児童・保護者アンケートでのご意見や地域運営懇談会での貴重なご助言を生かし、今後のより良い運営に職員一同努力したい。

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
児童健全育成事業においては、誰でも参加できるイベントと小学3年生から6年生を対象にしたイベントを毎月実施し、発達に合わせた遊びを提供している。中高生に対しても運動用具や楽器、テーブルゲーム等の充実を図り、自由来館の促進に努めている。 子育て家庭支援事業においては、2年目となる「ブラレール・おもちゃday」は保護者の要望を受けて土曜日にも開催した。幼児クラブは年齢にかかわらず当日参加も受け入れ、多くの乳幼児親子が利用できるよう工夫しており、異年齢交流や来館者同士の交流にも繋がっており、子育て家庭から好評を得ている。乳幼児への遊びや保護者のリフレッシュ、季節の行事やクッキング等を子育て支援クラブの協力のもとで実施し、活動を通じた世代間交流が図られている。 地域交流推進事業においては、近隣の保育施設へ児童クラブのこども達が訪問して、絵本の読み聞かせや遊びボランティアとして一緒に遊ぶ等して交流を深めている。運営懇談会で小中学生の居場所作りについて児童館が発信したことから、市名坂小支援地域本部の協力が得られ、小学生には工芸中心のワークショップの開催、中学生には学校休業日に小学校のパソコン教室を提供する「エンジョイタイム」の新たな取り組みに繋がり、地域と一体になってこどもの育ちを支援する環境作りに努めている。 放課後児童健全育成事業においては、こども達の作った作品を展示する「スマイル展示会」、「ぬりえコンテスト」を開催した。また、年間を通して講師を招いてけん玉教室を実施し、検定を行ったり集会時に発表の機会を提供して、遊びへの興味関心や自己有用感を高めながら、主体性を育てている。児童クラブの保護者会を「いちなじサポーターズ」としたことで積極的な行事への参加や協力があり、様々な機会を通してこども達の成長を保護者と共有している。	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：こども若者局こども若者支援部児童クラブ事業推進課